

7 高級感あふれる漆塗りの錫のぐい飲み



図 黒と朱の漆塗りの錫合金のぐい飲み
(生地製品はアートランド社の提供による)

開発の背景

アンチモニー製品は宝石箱、トロフィー、アクセサリなど、様々な工芸品として使われています。従来のアンチモニー製品は表面に金・銀のめっきや塗装を行って製品の機能性とデザイン性を高めていました。

アンチモニーは日本の代表的な伝統工芸品として、かつて欧米諸国に多量に輸出されていましたが、円高が進み始めた頃から次第に輸出量が減少しました。最近では、輸入品も増えております。従来の工法や材料による製品のままでは安い価格の輸入品との競合が厳しくなるので、この状況を打開するため、より高い付加価値を与えたアンチモニー製品の開発が期待されてきました。

そこで、東京都の地場産業に指定されているアンチモニー製造業の東京アンチモニー工芸協同組合と協力し、新たな合金開発に取り組みました。

開発の経過

アンチモニーは鋳造で造られているので、重量感があり、精密な表面の彫り込み模様ができるため、銀製品の代替品として使われています。

最初の開発目標として、従来工法をそのまま適用でき、銀の色調に最も近く、鋳造によって精密な鋳肌模様が得られることを設定しました。さらにもう一つの重要な開発ポイントとして、食品衛生法に適合し、生地状態で食器類として使える合金の開発を行いました。

開発した合金は錫を主成分とし、ピスマス、アンチモン、銅などを添加し、色調が銀に最も近い成分を決めました。磨いた生地の色調は銀製品そのものです。このため、銀めっきをせずにそのままの状態ですべてとして使えます。銀製品は長く使っていると黒く変色しますが、長期間経っても変色しません。また、成分を少し変えることで、その色調を変えることもできます。

従来のアンチモニー工法で、この合金を使って特に問題なく製品を造ることができました。

開発した製品の紹介

次に、この合金の生地の色合いを活かし、高級感を持たせた漆塗りによる製品のデザイン開発を行いました。

都産技研の塗装研究室の協力を得て、図のデザインのぐい飲みに仕上げました。銀色調の生地に漆を焼き付けることによってお互いの色合いが引き立ちます。この合金は漆との密着性も良く、金属表面から剥がれにくくなっています。生地と漆塗りとの対比によって、ぐい飲みに面白さが現れました。漆は色を変えることができ、また、表面を研磨することで艶だしも可能です。

これらの錫合金の工芸品は「エテナ」の商標で東京アンチモニー工芸協同組合から製品化されています。

研究開発部 先端加工グループ <西が丘本部>

佐藤健二 TEL 03-3909-2151 内線562

E-mail : sato.kenji@iri-tokyo.jp